

## 44 国立身体障害者リハビリテーションセンター修了生の就労状況

研究所 障害福祉研究部 八巻知香子, 河村宏

更生訓練所 指導部 小松原正道, 白浜一, 山内保孝

国立伊東重度障害者センター 藤田ゆかり

厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 渡邊雅浩

国立神戸視力障害センター 松岡利男

### 1. はじめに

障害のある人々が社会に参加し、充実した生活を送る上で、就労は極めて重要な要素である。国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所は、身体障害のある人々の社会復帰を目的とし、就労による自立を目指す訓練過程を提供している。同センターは、設立後 25 年間にのべ約 5000 名の身体障害者を受け入れてきた。訓練を終え、社会復帰を果たした人々が、現在どのような環境で就労を含めた社会復帰が達成されているのかについての状況を把握することは、サービス提供のあり方を考える上でも極めて重要である。そこで、平成 15 年度に、修了生を対象としたアンケートを実施し、就労の現状について把握したので、結果を報告する。

### 2. 対象と方法

同センターが設立された後 2003 年 5 月までに、更生訓練所のプログラムを修了、または中途退所した人のうち住所不明等を除く計 3190 名を調査対象とした。本報告では、回収票のうち就労の有無について無回答であった 17 票を除く 945 票を分析対象とした。調査は「当事者の経験にもとづいた社会のあり方に関するアンケート」として、現在の日本社会の問題指摘を依頼する項目を多数含む計 12 ページの調査票を郵送配票、郵送回収した。なお、この調査の倫理性については、同センターに設置されている倫理委員会において検討され、承認を得た。

### 3. 結果および考察

結果より、回答者の 63% が就労しており、その 90% 以上が現在の仕事を続けることを望んでいた。非就労者の 64%、中でも肢体不自由者では 73% の人が就労を望んでいた。ADL 達成度が低い場合(肢体不自由者)、障害者手帳が 1 級である場合(視覚障害者)、この一年で障害が重度化した場合に非就労者の割合が高くなる傾向が見られた。

就労環境については、「やりがい」「人間関係の良好さ」に関する項目は、いずれも 7 割から 8 割の人が肯定的に捉えていたが、「負担感」については、それぞれ 3 割、6 割近くと多数の人に訴えが見られた。「負担感」はあるものの、「やりがい」や「人間関係の良好さ」を感じながら働くことができているケースが多いと考えられた。一方、「勤めの仕事」である場合や、特に聴覚食害者では、職場の理解が得られにくく、孤立しがちな状況での就労を続けている人もいる可能性が高いことが窺われた。

障害が重度化して就労の形態や業務内容の変更が必要になった場合や、職場で孤立した場合などにサポートを提供できる窓口の整備が必要であると考えられた。

表1. 就労・非就労の状況

N=945

	肢体不自由者 n=469		視覚障害者 n=341		聴覚障害者 n=135		計	
	n	%	n	%	n	%	n	%
仕事をしている*	292	60.7	214	62.2	96	70.1	602	62.6
ずっと続けていきたい	145	49.7	140	65.4	41	43.2	326	54.2
いましばらく続ける	108	37.0	60	28.0	43	45.3	211	35.1
転職したい	32	11.0	8	3.7	11	11.6	51	8.5
働くことをやめたい	4	1.4	2	0.9	0	0.0	6	1.0
無回答	3	1.0	4	1.9	0	0.0	7	1.2
仕事をしていない	177	36.8	127	36.9	39	28.5	343	35.7
仕事につきたい <sup>2)</sup>	129	72.9	71	55.9	21	53.8	221	64.4
仕事につきたくない <sup>2)</sup>	41	23.2	52	40.9	14	35.9	107	31.2
無回答 <sup>2)</sup>	7	4.0	4	3.1	4	10.3	15	4.4

1) 就労の有無についての無回答の17名を除く値。

2) 斜体字は再掲でそれぞれ「仕事をしている」「仕事をしていない」と答えた人中での割合。

3) 「仕事をしている」「仕事をしていない」と答えた人の割合は、障害による有意な差はない( $\chi^2$ 乗検定)。

表2. 就労環境の評価

	n <sup>2)</sup>	% <sup>2)</sup>
やりがい		
自分の能力を発揮できる仕事だ	477	81.5
仕事にやりがいやおもしろさを感じる	424	72.5
人間関係の良さ		
職場の人間関係に恵まれている	451	80.4
障害によって不利な扱いを受けている	144	24.7
自分は職場や仕事の上で認められていると思う	418	72.9
負担感		
自分には負担が大きすぎる仕事だ	162	27.7
仕事のためにとても疲れる	328	56.4

注1) 非就労者および無回答、家族等による代理回答を除いた値。

注2) それぞれの項目に対して、「ややそうだ」「大いにそうだ」と答えた人の割合